

地方創生×ネイチャーポジティブ 取組事例集

令和8年3月

内閣府地方創生推進室

目次

■ はじめに	1
■ 事例一覧	2
モデル地域事例	
01 長野県信濃町	3
02 三重県尾鷲市	5
03 岡山県笠岡市	7
04 香川県三豊市	9
05 佐賀県唐津市	11
06 佐賀県鹿島市	13
その他先進事例	
01 宮城県大崎市	15
02 宮城県南三陸町	16
03 三重県いなべ市	17

～本事例集の見方～

モデル地域事例

構成

1ページ目	地域の基礎情報、取組により目指した地方創生効果、ネイチャーポジティブ視点での地域資源と環境保全効果、取組内容を紹介しています。
2ページ目	今回の取組の検討プロセスにおける課題と対応、工夫した点、取組の実施体制、短期・中期のロードマップも紹介しています。

その他先進事例

構成

1ページ目	地域の基礎情報、取組内容、取組による地方創生効果、ネイチャーポジティブ視点での地域資源と環境保全効果を紹介しています。
-------	---

はじめに

- 人手不足や地域経済の活性化が共通課題となる中で、地域の魅力を高め、地域が持つ本来の価値を發揮して地方創生を実現していくためには、その基盤となる地域の自然資源に目を向けることが重要となります。
- 本事例集は、地域の自然資源の豊かさと地域の価値を相互に高め合う「自然資本を核としたネイチャーポジティブな地域づくり」による地方創生に地域で取り組むにあたり、取組のヒントや活用できる情報などを整理しています。
※以降、事例集内では、ネイチャーポジティブ:NP
- 本事例集では、令和7年度に「地方創生×ネイチャーポジティブの推進に向けたモデル支援事業」のモデル地域として、地域の自然資源を活かしながら、関係人口の創出や農林水産業の付加価値創出、地域環境の整備などの効果の創出に向けて取り組んだ6自治体と、他先進的な取組を行っている3自治体の事例を紹介しています。
- これらの取組のきっかけや上手くいった点・工夫した点、課題とその解決方法等から、皆さまの地域での地方創生や地域づくりの実現に役立つヒント・要素を拾っていただき、今後に役立てていただけますと幸いです。

事例一覧

本事例集では、各地域の取組を、地方創生への波及効果と地域特性である自然環境との二つの視点で紹介しています。

モデル地域事例

- 01 長野県信濃町 森林 産業の付加価値創出 地域経済循環の向上
- 02 三重県尾鷲市 森林 関係人口の創出 産業の付加価値創出
- 03 岡山県笠岡市 沿岸 関係人口の創出 産業の付加価値創出
- 04 香川県三豊市 沿岸 外部資金獲得 地域経済循環の向上
- 05 佐賀県唐津市 沿岸 関係人口の創出 外部資金獲得 地域経済循環の向上
- 06 佐賀県鹿島市 干潟 関係人口の創出 外部資金獲得

地方創生上の効果

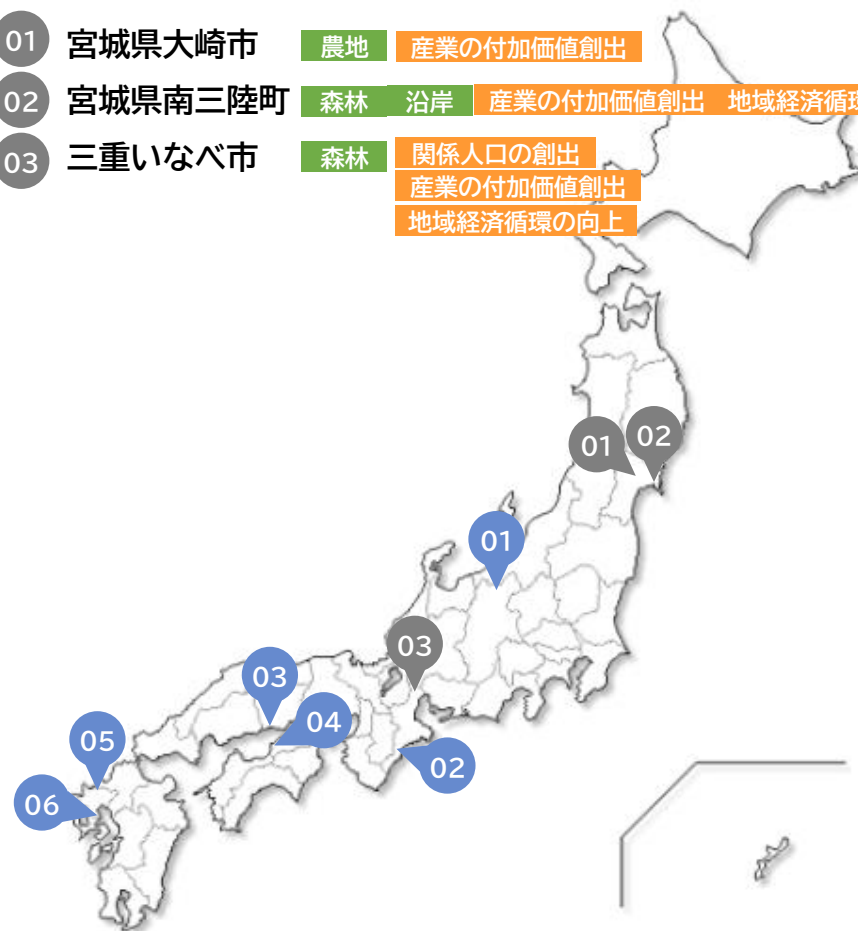
- 関係人口の創出
- 移住・定住の促進
- 外部資金獲得
- 地域経済循環の向上
- 産業の付加価値創出 など

地域の自然の特性

- 森林
- 農地
- 里山
- 沿岸
- 干潟 など

その他先進事例

- 01 宮城県大崎市 農地 産業の付加価値創出
- 02 宮城県南三陸町 森林 沿岸 産業の付加価値創出 地域経済循環の向上
- 03 三重いなべ市 森林 関係人口の創出 産業の付加価値創出 地域経済循環の向上



01 長野県信濃町「リジェネラティブツーリズムを軸とした新たな地域モデルの確立」-1

森林セラピーなどの観光産業を有するが、閑散期対応や町民の環境意識向上等が課題となっていたため、「観光客が訪れるほど、地域の資源(生物多様性)が回復する」リジェネラティブツーリズムを軸に観光産業の高付加価値化や関係人口の創出等を図る新たな地域モデルの確立を目指す。

基本情報

人口： 7,739人(令和2年10月時点)

面積： 149.3km²

産業： 観光業、製造業、農林業

取組により目指した地方創生效果

▶▶▶観光産業の高付加価値化

リジェネラティブツーリズムによる観光産業の高付加価値化。それによる関係人口創出や移住・定住人口増加

▶▶▶外部資金獲得による経済・産業の強化

ネイチャーポジティブな取組との連携による経済・産業の活性化

< 信濃町第6次長期振興計画後期基本計画の関連施策・目標 >

基本目標1. 協力の輪が広がり、お互いに支え合うまち

基本目標2. 地域ぐるみで子どもを育むまち

基本目標3. 生涯を通じて、だれもが健康に自分らしく暮らせるまち

基本目標4. 安全に確かな暮らしができるまち

基本目標5. 地域資源を活用した産業があるまち

基本目標6. 分野横断施策(6-1-1.脱炭素)



ネイチャーポジティブの視点

▶▶▶地域の自然資源の活用

**黒姫山、野尻湖、癒しの森等の豊かな自然
持続可能な農林業・観光業**

- ・地域の自然資源を活かした森林セラピー
- ・地域内3か所の自然共生サイトの活用
- ・持続可能な農林業への取組



環境保全効果

- 持続的な自然環境保全の仕組み
- 農林業・観光業の環境負荷低減



取組内容

- ◆ 庁内複数部署でのワークショップ等により、リジェネラティブツーリズムを中心にした、文化や農業、観光など各分野で統合的に取り組む施策方向性を整理。
- ◆ 多様なステークホルダーが集まるネイチャーポジティブ推進協議会において、施策方向性に係る共通認識を共有。

取組のねらい

信濃町のWell-being向上、戦略的なネイチャーポジティブの推進に向けて、官・民それぞれで棚卸・今後の方向性の認識合わせをし、次年度以降これらの動きを融合していく！

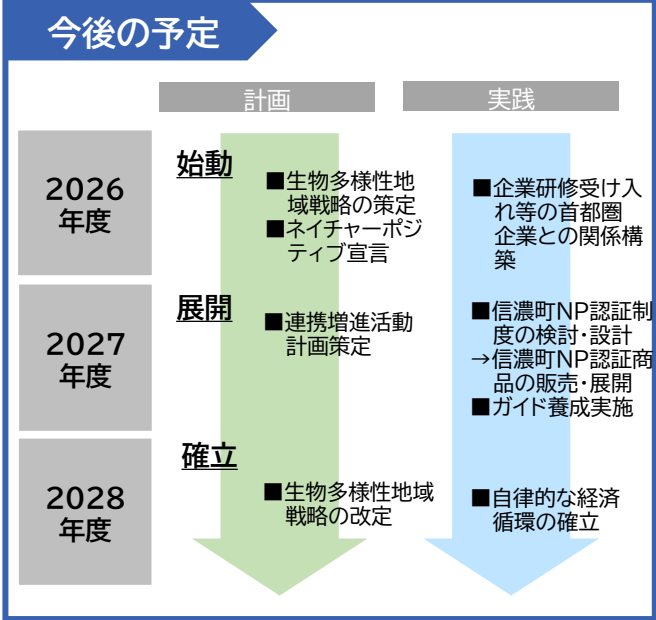
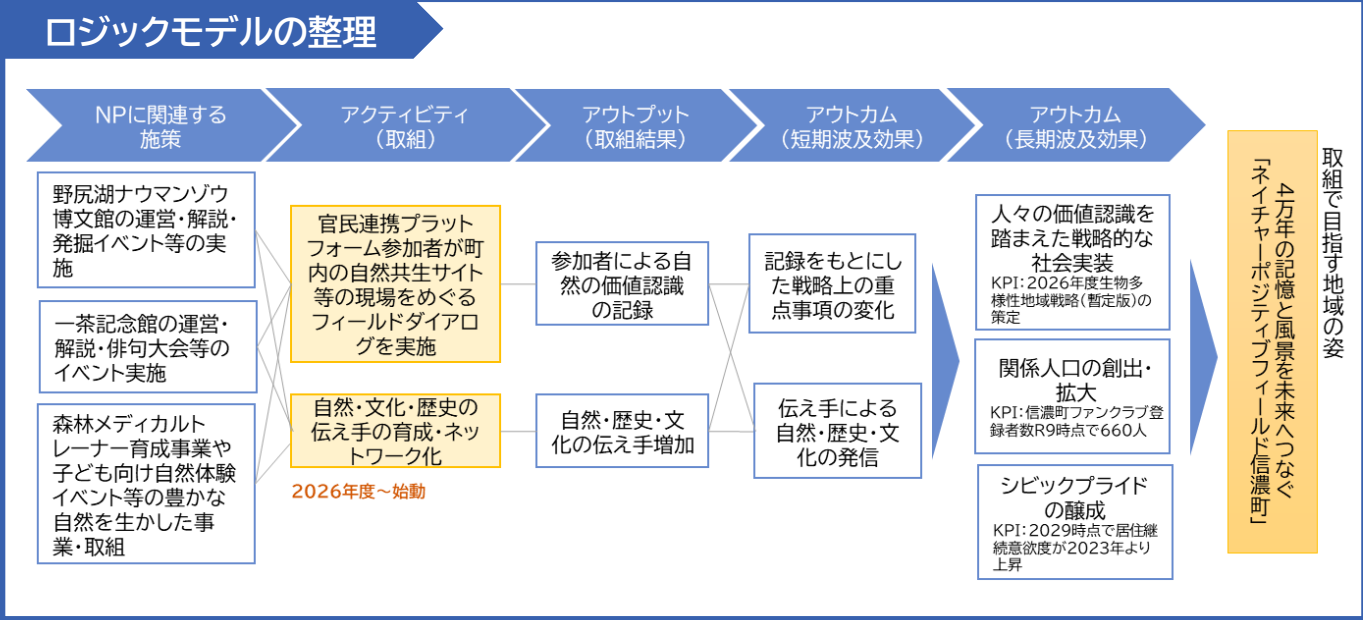
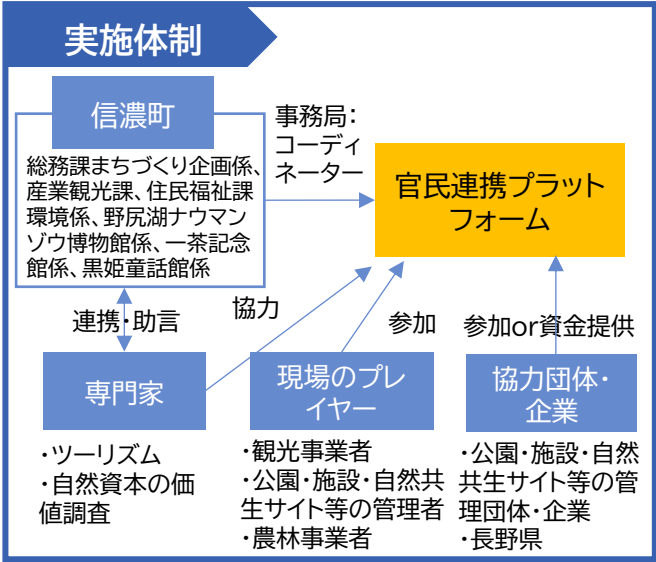
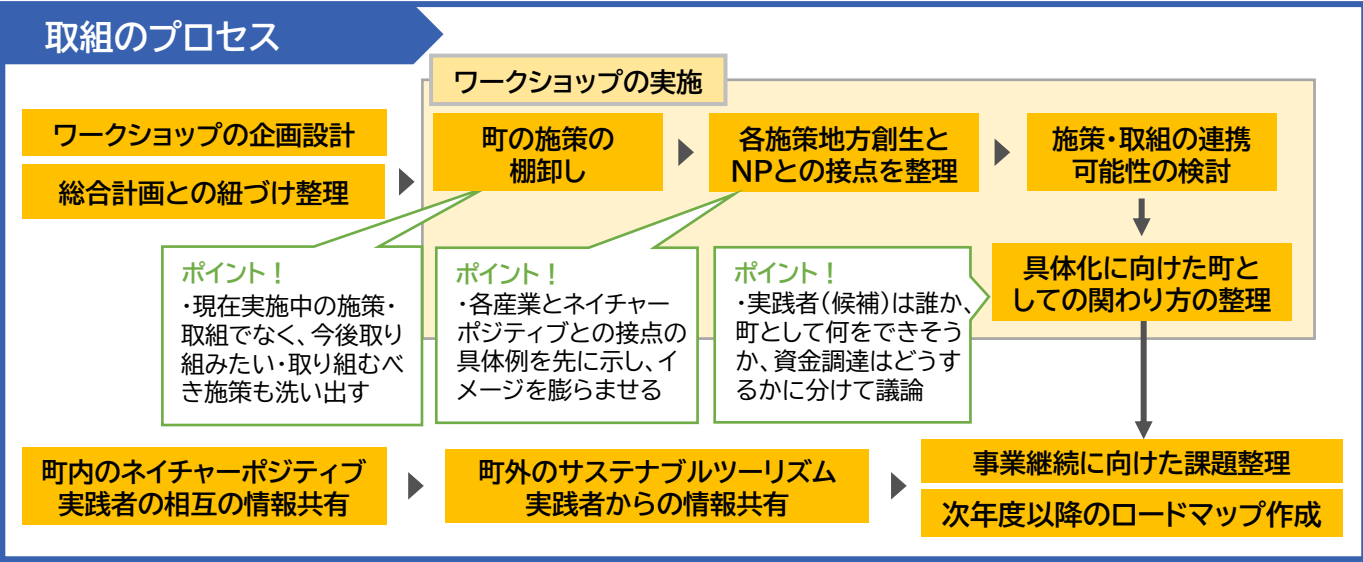


ワークショップでは様々な部署の職員が集まり、連携事業に係る議論を実施。

講演会では町内の観光事業者等も他地域の先進的な取組事例を確認。



01 長野県信濃町「リジェネラティブツーリズムを軸とした新たな地域モデルの確立」-2



02 三重県尾鷲市「22世紀のサステナブルシティに向けた地域連携」-1

農林水産業の担い手減少やそれに伴う山林の荒廃などの課題を踏まえ、「22世紀のサステナブルシティ」を目指して第一次産業の再興をネイチャーポジティブコンソーシアムのパートナー企業等とともに推進。さらに地域の住民・事業者との接点づくりを進め、より地域に裨益し参画を図る取組への発展を目指す。

基本情報

人口：15,015人(令和8年2月時点)
面積：192.71km²
産業：漁業、林業、農業

取組により目指した地方創生效果

▶▶▶関係人口の創出

企業参画による森づくり等により関係人口を創出し、地域内の事業者等と結びつける

▶▶▶地域産業の付加価値創出

一次産業の場で生産だけでなく地域資源の保全や教育資源としての付加価値も創出する。

<総合戦略の関連施策・目標>

■第7次尾鷲市総合計画2022-2031

- 基本目標3 人々が集い、活力溢れるまちを創る
- 基本目標4 郷土を愛し、学び・伝えるまちを創る

■第2期 尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 基本目標1 稼ぐまちをつくとともに、安心して働けるようにする
- (1)まちの特性に応じた、生産性が高く、稼ぐまちの実現



ネイチャーポジティブの視点

▶▶▶地域の自然資源の活用 森林や海域の環境

- ・多面的機能の発揮が期待される市有林
- ・森川里海に紐づく地域の多様な食や文化に係る資源



環境保全効果

- 土壌改良、水脈整備による生態系保全
- 森林の多面的機能の発揮



市有林にある「みんなの森」

取組内容

- ◆コンソーシアム等で取り組む自然資源の保全に係る施策が地方創生に寄与するロジックモデルを整理し、全庁的な取組体構築を推進。
- ◆地域に向けたストーリーを整理し、地域住民向けの座談会等を実施し、地域全体での推進体制を強化。

取組のねらい

庁内向けにはコンソーシアムの取組と市の施策の紐づけを整理し、住民向けには尾鷲がどうよくなるのかを説明する機会を設けることで、連携や参加を促進したい！



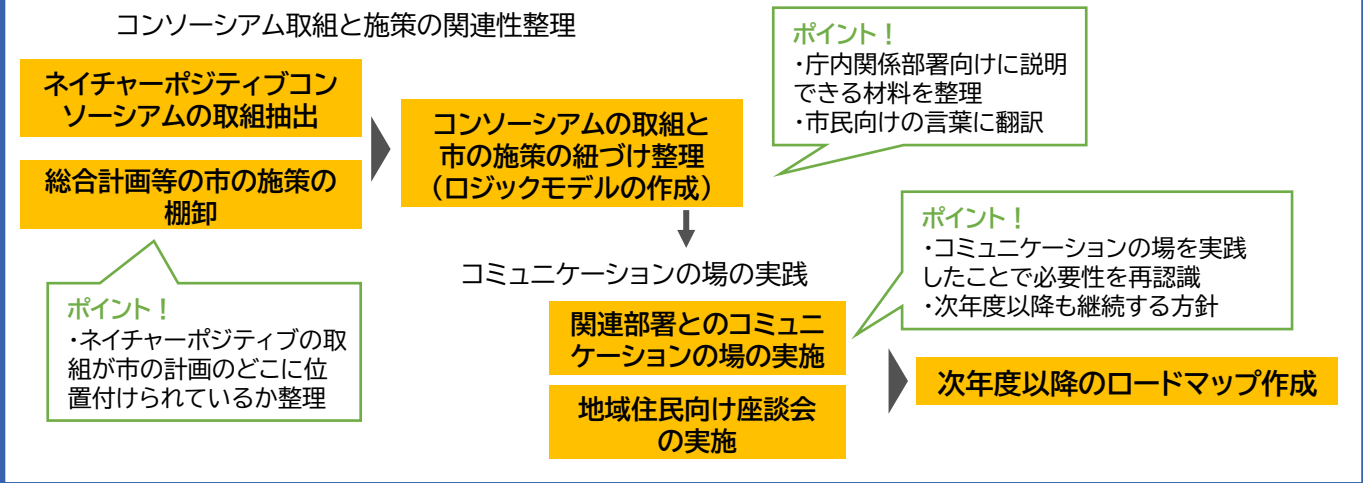
ロジックモデルを用いて、市の施策との紐づけを整理を検討。

地域住民向けの座談会では、整理結果も踏まえて説明。令和8年度以降も継続して市民とのコミュニケーションの場を開催する方針。

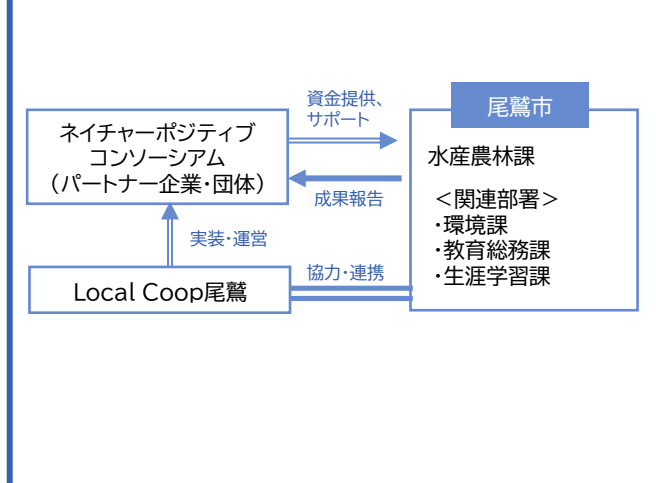


02 三重県尾鷲市「22世紀のサステイナブルシティに向けた地域連携」-2

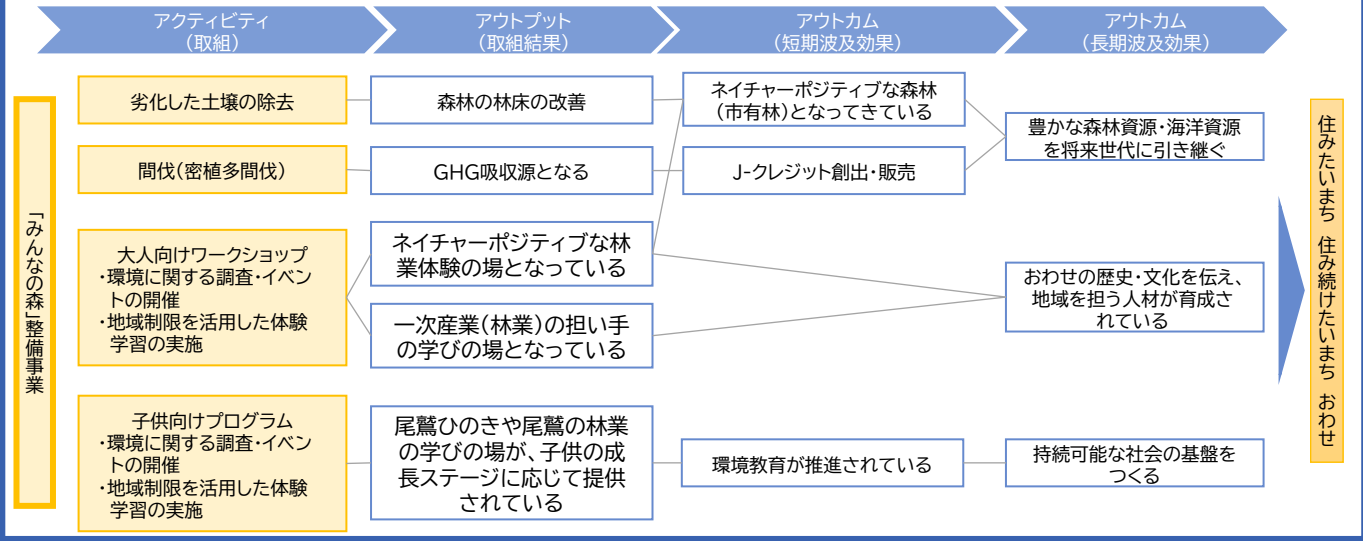
取組のプロセス



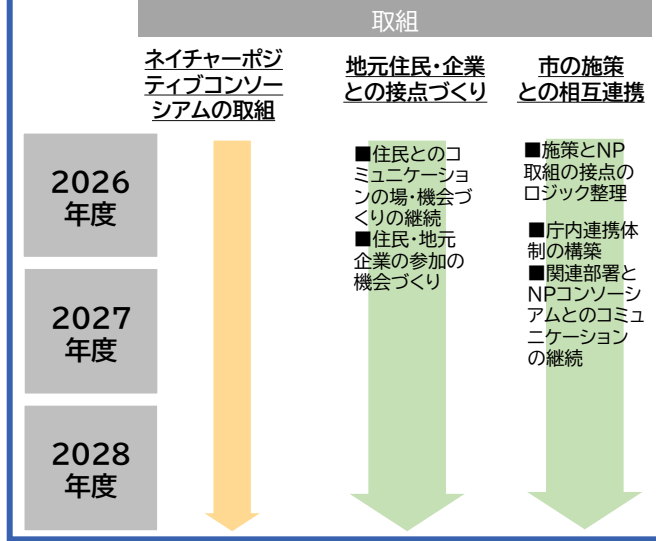
実施体制



ロジックモデルの整理



今後の予定



03 岡山県笠岡市「地域のシンボル・カブトガニを軸とした未来創生プロジェクト」-1

笠岡市のシンボル種であるカブトガニとその生息環境を活用し、若い世代が地域の魅力の再認識や、地域とのつながりを創出する「カブトガニを軸に多様な人が関われる笠岡市」を目指す。若者と地域の関係人口を創出し、地域企業等も巻き込んだ共同プロジェクトを進めている。

基本情報

人口： 42,836人(令和8年2月末時点)
 面積： 136km²
 産業： 製造業、インフラ関連産業、
 農畜産業、水産業

取組により目指した地方創生効果

▶▶▶関係人口の創出

大学入学・就職を機に市外に出る若い世代と地域資源や地域事業者との関係人口を創出

▶▶▶地域企業の付加価値創出、人材獲得

学生と地域企業による共同プロジェクト

<総合戦略の関連施策・目標> 笠岡市第8次総合計画
 基本理念1.暮らしを支える (1)-②地場産業の育成と事業承継
 基本理念2.まちを整える (1)-②魅力的なまちづくりと定住促進 (2)-①快適な生活環境を守る
 基本理念3.子どもを守り人を育む (2)-②文化・芸術の振興と探究



ネイチャーポジティブの視点

▶▶▶地域の自然資源の活用

地域のシンボル種であるカブトガニとその周辺環境

- ・カブトガニ繁殖地である神島水道
- ・世界で唯一カブトガニをテーマにしたカブトガニ博物館



環境保全効果

- カブトガニの生息環境の保全
- カブトガニ幼生確認数の増加

取組内容

- ◆若者がカブトガニをきっかけに地域資源や地域事業者とつながりを持ち、地域の未来の創造につながる取組を考えるフィールドワークとワークショップを実施。若者と地域関係者が次年度以降連携するプロジェクト案を創出。
- ◆庁内の地方創生施策をネイチャーポジティブの視点から整理し、全庁的な取組を推進。

取組のねらい

地域の企業をはじめ、様々な分野・世代の方々と関わることで、将来の活躍の場として笠岡をイメージしてもらい、担い手となってほしい！



市内外の中・高・大学生が参加

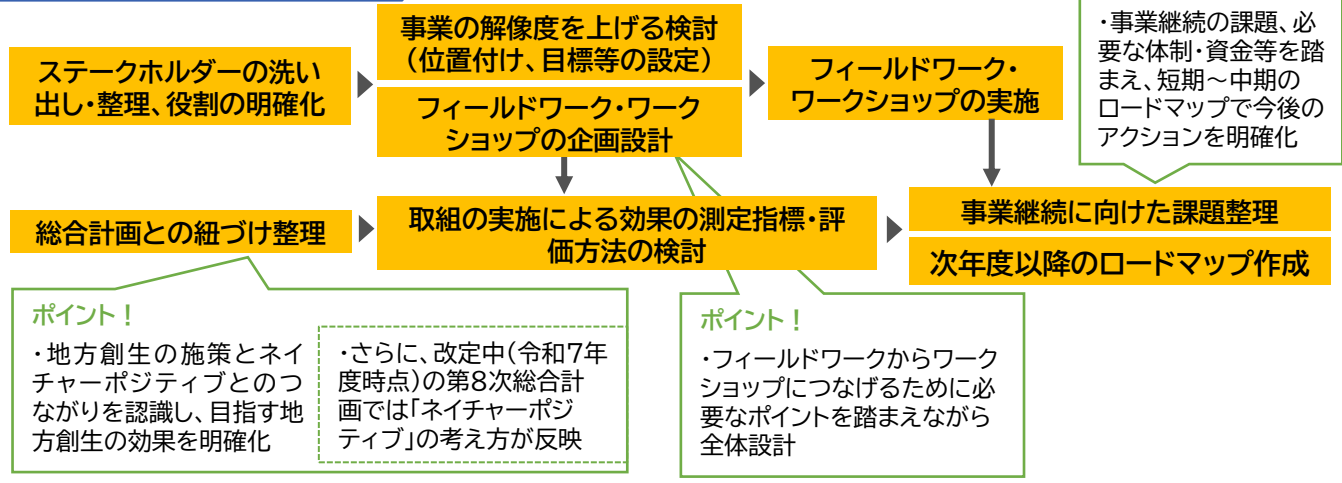
フィールドワークでは、カブトガニ博物館館長や漁業者・水産関係の地元企業が講師役を務める

ワークショップでは、グループに分かれてアイデアを出し合い、最後に市長や関係者に向けて発表

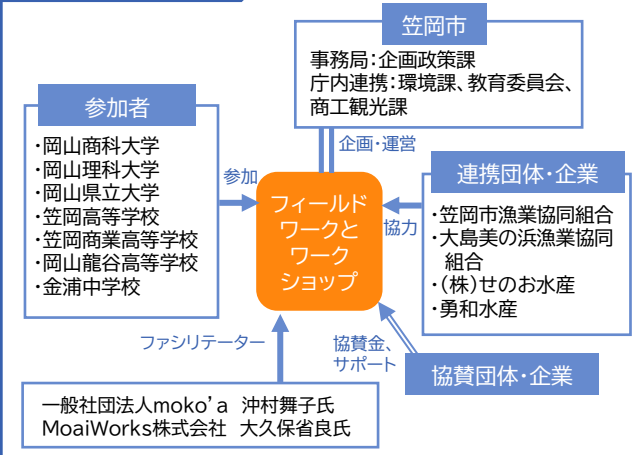


03 岡山県笠岡市「地域のシンボル・カブトガニを軸とした未来創生プロジェクト」-2

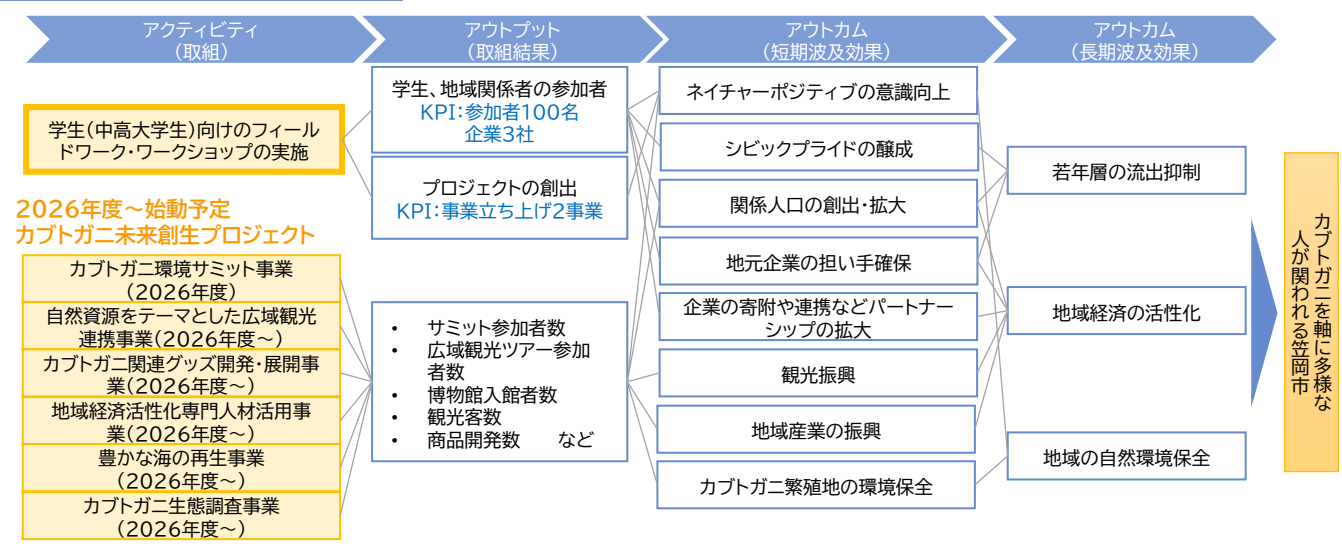
取組のプロセス



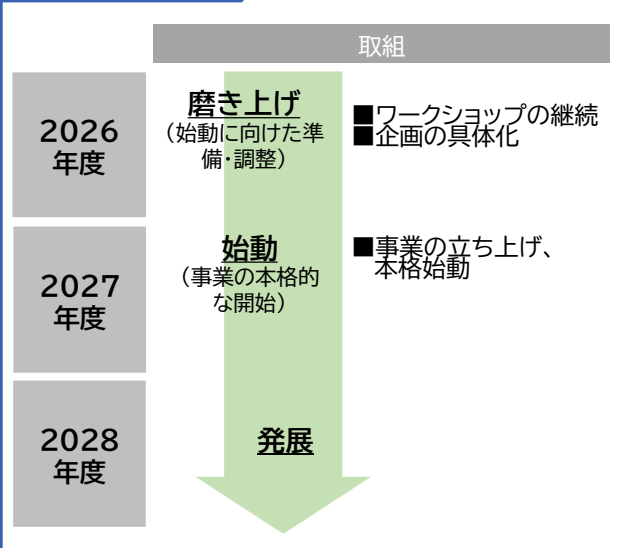
実施体制



ロジックモデルの整理



今後の予定



04 香川県三豊市「藻場再生を通じた新たな歳入創出と経済循環モデル構築」-1

有名な観光名所「父母ヶ浜」をはじめ里山・里海・島などの多様な自然資源を活用し、市の財源確保などの課題に対応するため、地域の自然資源の価値を再評価し、各資源を活用した取組による歳入が地域資源の保全(ネイチャーポジティブ)に繋がる、経済循環モデルの構築を目指す。

基本情報

人口：56,911(令和8年2月時点)

面積：222.7km²

産業：製造業、卸売業・小売業、農業

取組により目指した地方創生效果

外部資金獲得

三豊市の自然を活用して、市外の消費者・企業から外部資金を獲得

地域経済循環の向上

市内の事業者・企業にとって新たな産業創出につながる事業を検討するとともに、複数の自然資源を連携して得られた外部資金を地域内で経済循環させるモデルを構築

<総合戦略の関連施策・目標>三豊市第2次総合計画

基本目標1.にぎわいが地域を元気にするまち(産業・交流)

1-1.農業・林業 農産物の高付加価値化・消費拡大の促進【重点】

1-2.水産業 消費拡大の促進、水産資源の確保

1-3.観光 連携体制の構築・強化 着地型観光の推進

1-4.商業・工業 デジタル地域マネー・ポイントによる地域内経済の循環【重点】、創業支援

ネイチャーポジティブの視点

地域の自然資源の活用

蔦島周辺海域で再生予定の藻場、
父母ヶ浜(自然共生サイト)

- ・瀬戸内海国立公園の無人島「蔦島」
- ・潮だまりに反射する夕日が有名な「父母ヶ浜」



蔦島(出典:三豊市観光交流局HP)



父母ヶ浜(出典:三豊市HP)

環境再生効果

- 海草(アマモ・ガラモ等)の再生
- 豊かな里海(水産資源)の回復

取組内容

- ◆ 全庁的なワークショップにより観光、水産、スポーツなど多様な所管分野が知恵を出し合う議論の場を創出。
- ◆ 蔦島周辺における藻場再生や自然体験ツアー事業化による滞在型の観光の推進など具体プロジェクトを整理。
- ◆ 観光地父母ヶ浜における寄付き水産商品等により収益を環境に還元する仕組みを検討。

取組のねらい

豊かな自然は人の手によって守られていることを知ってもらい、三豊の自然を学び関われる機会を増やし、地方創生につなげたい!



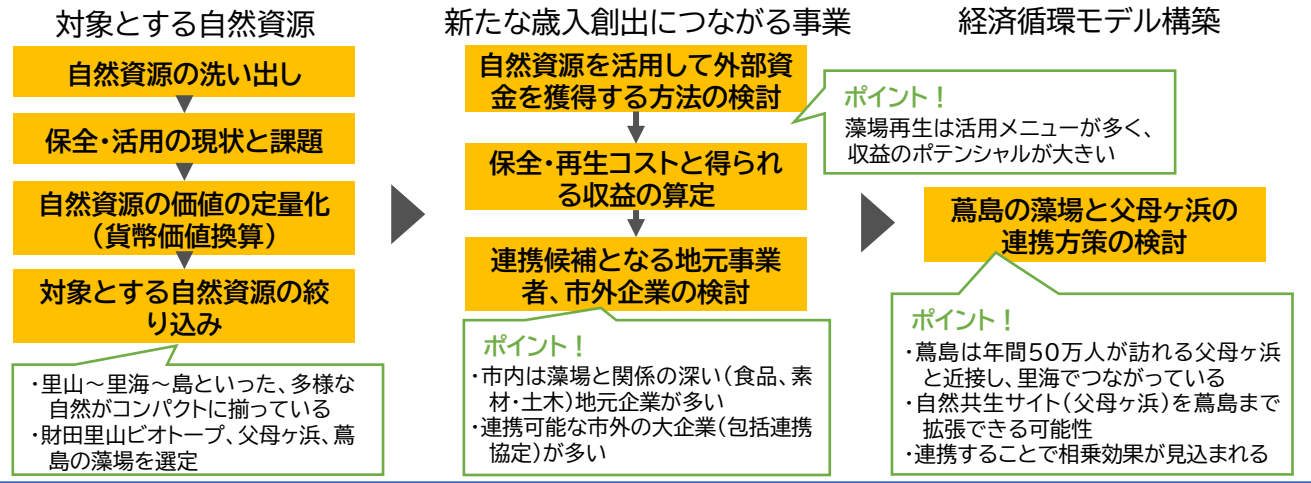
ワークショップには、環境だけでなく、観光・産業、農業・水産、財政、地域戦略など地方創生の関連部署が参加

蔦島の藻場だけでなく、年間50万人が訪れる父母ヶ浜と連携することで、地方創生效果が高まる

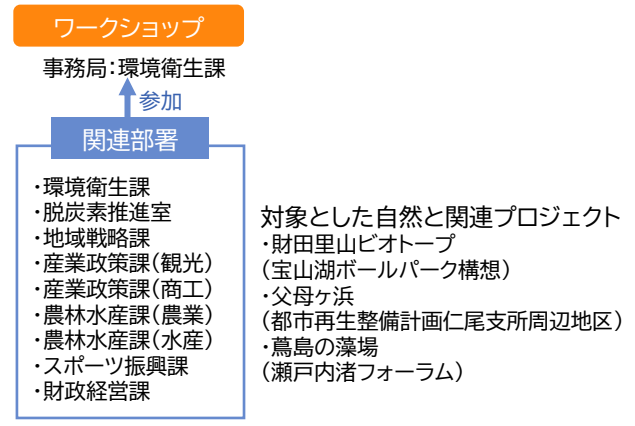


04 香川県三豊市「藻場再生を通じた新たな歳入創出と経済循環モデル構築」-2

取組のプロセス



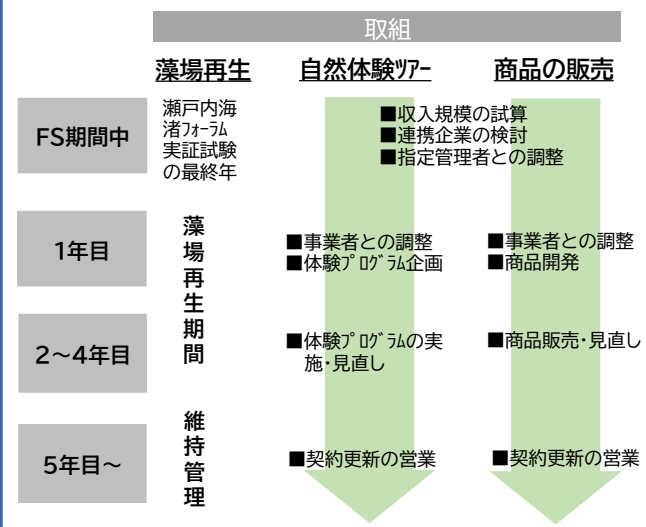
実施体制



事業の具体化

鳶島で再生する藻場を活用した重点プロジェクト	内容	外部資金提供者	事業者・連携者
自然体験ツアー	藻場の大切さが伝わる体験ツアー ※父母ヶ浜で鳶島を宣伝・利用誘導 ※魚と藻草をシュノーケリングで観察 ※ガイド付き、魚を食べる食事付きで付加価値をつける	・都市からのツアー参加者 ・父母ヶ浜を訪れた観光客	・ツアーを企画・実施する地元の事業者 ・ツアーを宣伝する市外の企業 ・宿泊関連団体
商品開発・販売	海藻や藻場に集まる魚を使用した商品を開発・販売 ※ブランド化等により付加価値をつける ※父母ヶ浜で宣伝・販売	・父母ヶ浜を訪れた観光客 ・高松空港の利用者	・漁業者 ・地元の商品開発・製造業者 ・市外・地元の販売先、卸売・小売業者

今後の予定



05 佐賀県唐津市「自然資本を活用した環境・社会・経済の統合的価値創出」-1

農林漁業の担い手不足や高齢化、中山間地や沿岸部の産業基盤の維持が課題となっていることから「唐津市ネイチャーポジティブ宣言」に基づき、自然資本を活かした持続可能な地域経済圏の構築に向けて、自然資本の見える化・保全再生、人材育成、外部資金の循環を一体的に推進。先行事業として藻場の保全・再生とJ-ブルークレジット獲得を推進。

基本情報

人口： 112,228人(令和8年3月時点)
面積： 487.6 km²
産業： 製造業、建設業、農業・林業、水産業

取組により目指した地方創生効果

外部資金獲得

水産業を中心とした自然再生に資金が流れる仕組みづくりや外部資金の呼び込み・ストーリー性のあるJ-ブルークレジットの検討

地域経済循環の向上

行政、大学研究機関、企業等の多様な主体で「ネイチャーポジティブ推進協議会」を設立し、企業版ふるさと納税等を活用した循環型経済モデルを構築

<総合戦略の関連施策・目標> 第3次唐津市総合計画

- 基本施策1-3 市民との共同による地域活動の活性化、1-5
 - 基本施策2-1 地域資源の魅力アップによる販路拡大
 - 基本施策2-2 地域経済を活性化させる商工業振興と持続的な成長・創業支援
 - 基本施策2-4 唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり
 - 基本施策2-5 後継者が育つ持続可能な農林水産業の振興
- その他、基本施策3-3、3-4、4-1、5章すべて



ネイチャーポジティブの視点

地域の自然資源の活用

串浦周辺海域での藻場再生

- 自然共生サイト「串浦ふるさとの海」
- 地元漁師等による藻場保全・再生
- J-ブルークレジットによる保全効果の価値取引



藻場再生の様子
(出典：唐津市HP)

環境保全効果

- 藻場(ガラモ・アラメ等)の再生
- 水産資源(ウニ・アワビ等)の回復

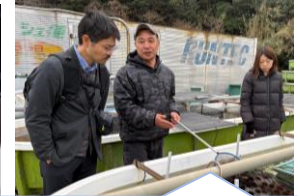
取組内容

- ◆ 地域の自然資源を保全・再生する「ネイチャーポジティブ」が市の将来像や総合計画の中にどう位置付けられるか、企画部局と環境部局で議論し、「ネイチャーポジティブ」と地方創生のつながりを共通言語化。
- ◆ 唐津市内各地での取組を活性化させ、ブランド商品化、ガストロノミーに繋げていく等、海業を地方創生に繋げていく仕組みづくりについて方針を整理。

取組のねらい

・総合戦略の施策と関連するネイチャーポジティブの取組を洗い出し、唐津にとってのネイチャーポジティブの範囲が見える化

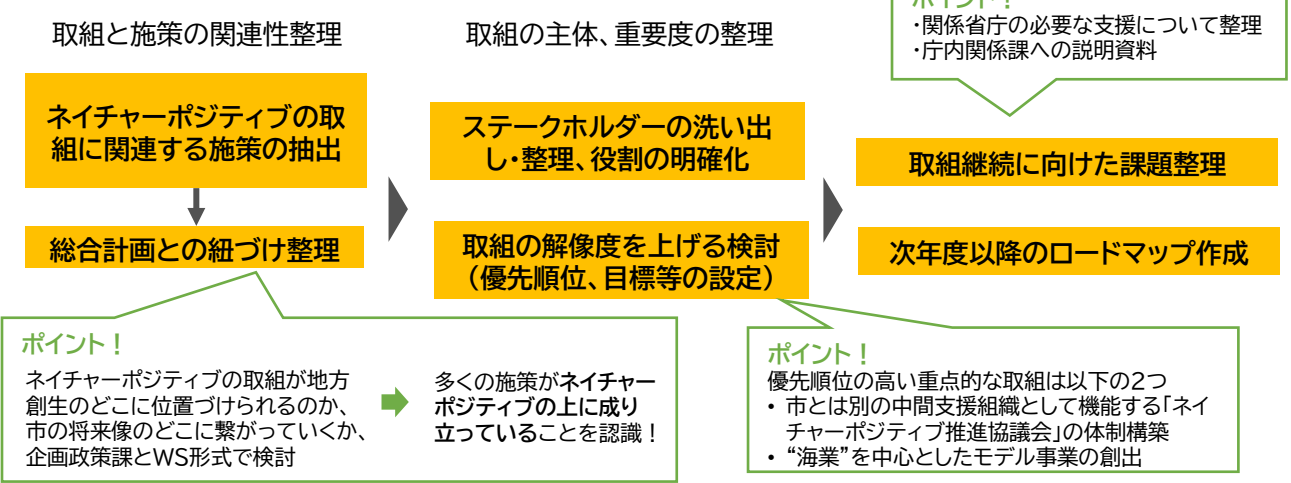
環境課、企画政策課でネイチャーポジティブに関連する施策について整理



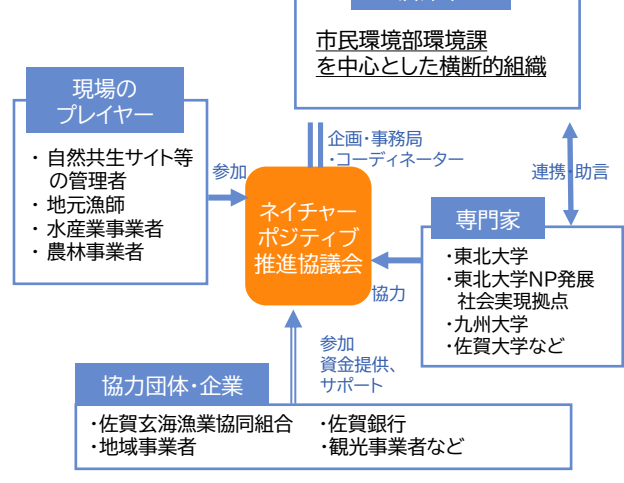
専門家同席で、藻場の保全・再生に取り組む漁業者に取組内容と課題についてヒアリング

05 佐賀県唐津市「自然資本を活用した環境・社会・経済の統合的価値創出」-2

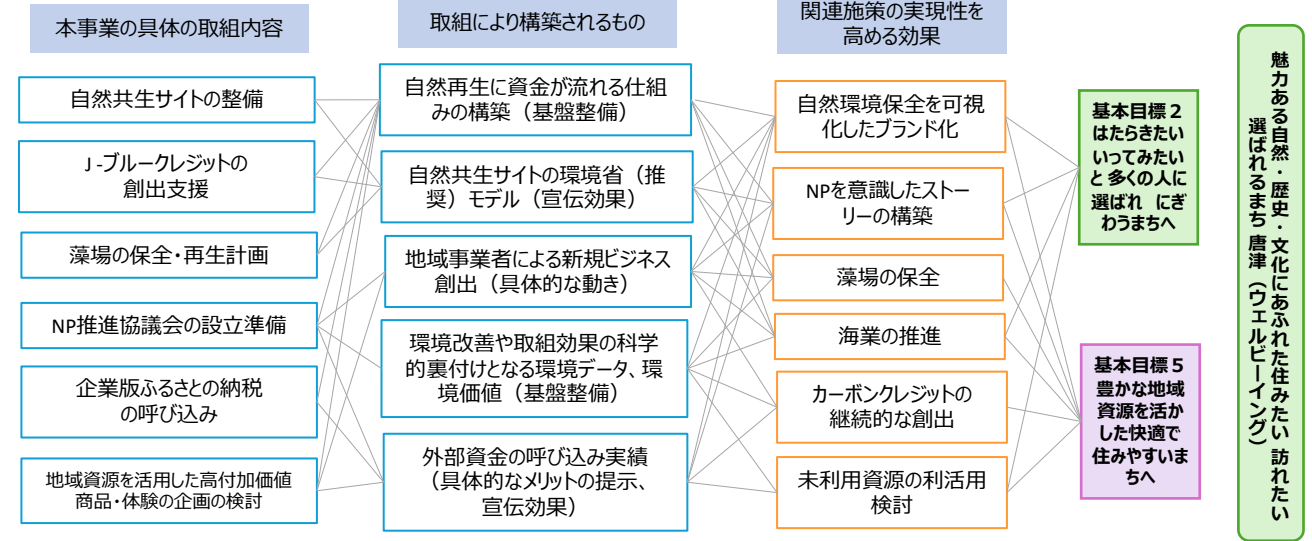
取組のプロセス



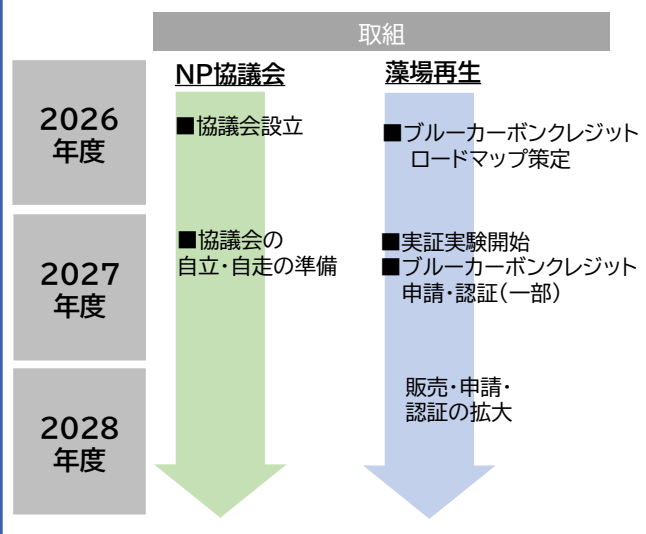
実施体制



ロジックモデルの整理



今後の予定



06 佐賀県鹿島市「自然共生サイトを核とした地方創生×ネイチャーポジティブの推進」-1

保全活動の担い手の高齢化を背景とした関係人口の創出と、観光や環境教育の拠点の必要性から、自然共生サイト「ななうら干潟とめだかの里」を活用した「コト」体験のコンテンツ造成や関係人口のマッチングを図る仕組み、活動資金獲得等を目指す。活動拠点となる道の駅への来訪者増加による地域製品の販売促進も含めた付加価値創出も進める。

基本情報

人口： 27,068人(令和7年3月末時点)
 面積： 112.12 km²
 産業： 製造業、卸売業・小売業、建設業、農業、水産業

取組により目指した地方創生効果

▶▶▶関係人口(活動人口)の創出

自然体験や保全体験のコンテンツを活用した継続的な関係人口・活動人口の創出

▶▶▶外部資金獲得

市内の環境保全活動に必要な資源(人・資金)の獲得、道の駅での売上増加

<総合戦略の関連施策・目標> 第3期鹿島市 まち・ひと・しごと創生総合戦略
 政策目標3「地域の魅力発信と活力ある産業の創出・振興」
 政策目標5「豊かな自然環境と安全安心な暮らしとの共存共生」



ネイチャーポジティブの視点

▶▶▶地域の自然資源の活用

ななうら干潟とめだかの里(七浦地区の干潟・里山水路・河川)

地域の自然共生サイトで必要な保全活動
 ・ムツゴロウなどが生息する干潟環境の「ななうら干潟」
 ・ミナミメダカやウナギが生息し地元住民が保全活動を行う「めだかの楽校」「音成川」。



遠くまで広がるななうら干潟



地域で管理するビオトープ

環境保全効果

- 干潟の環境改善
- 里地環境の保全

取組内容

- ◆ 地域の資源である自然共生サイトの保全に必要な資源(活動人口・資金等)、受入れ態勢を整理し、関係人口の関わり代としてコンテンツ化を検討。
- ◆ ネイチャーポジティブの観点からSDGsパートナーなど協力企業が求める取組効果等を整理し、保全活動に必要な資金等を獲得するための仕組みを検討。

取組のねらい

市が持っている関係人口創出の施策(マッチング事業、農業体験)や企業版ふるさと納税と、環境保全活動を紐づけることで相乗効果を狙う!

音成川ゾーン
音成川の河口
干潟体験
多くの人が入って欲しいななうら干潟(道の駅に隣接)
人がたくさん入ると環境が荒れてしまうめだかの里

06 佐賀県鹿島市「自然共生サイトを核とした地方創生×ネイチャーポジティブの推進」-2

取組のプロセス

・自然共生サイトのエリアごとに必要な資源を整理
・既存の関係人口創出施策の洗い出し

必要な活動人口の数・質に応じた地方創生施策とのマッチング検討

ターゲットと活動内容に応じたインセンティブや市内経済に繋がる仕組みの検討

企業から活動資金を獲得する検討

貢献に対するフィードバックの検討(環境保全効果、市による広報等)

総合戦略との紐づけ整理

今後のロードマップ作成

ポイント!
・関係人口の解像度を高めて、「活動人口」(作業や活動と一緒に来てくれる人)をターゲットとした
・新たな事業の立ち上げありきではなく、まず既存の仕組みの活用・応用を考えた

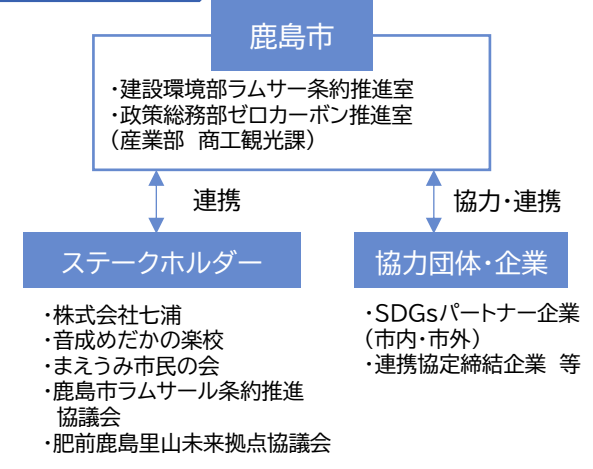
ポイント!
・たくさんの人に入って欲しい「干潟」エリアは、全国の干潟好きを関係人口(活動人口)をターゲットとして人気イベント「鹿島ガタリンピック」の参加枠をインセンティブとして設計



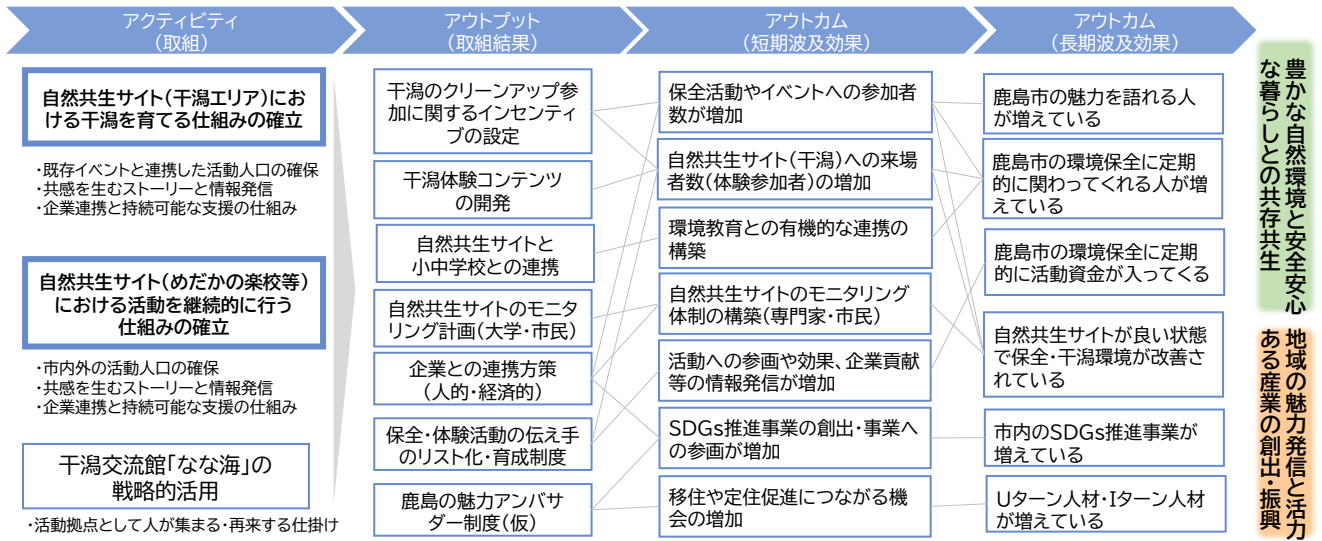
ガタリンピックの様子

ポイント!
・SDGsパートナー企業にもアンケートを実施。人的・経済的・技術的支援の可能性を把握。まずは市内企業をターゲットとして今後セミナー等でアプローチ

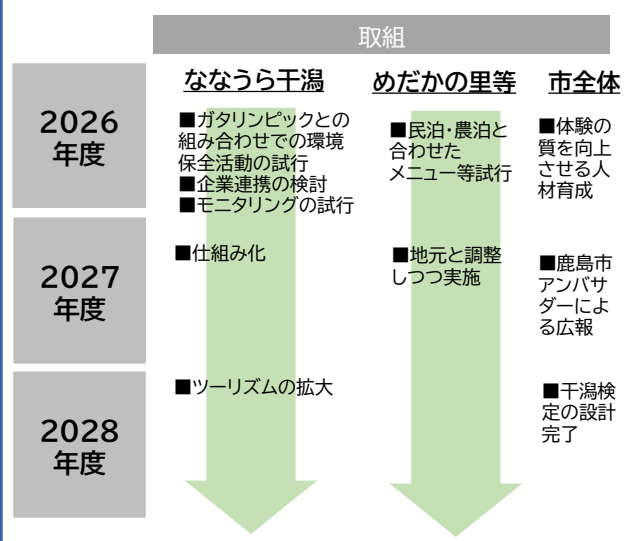
実施体制



ロジックモデルの整理



今後の予定



01 宮城県大崎市「世界農業遺産『大崎耕土』」のブランド化による農業振興

世界農業遺産「大崎耕土」の魅力を発信し、価値を伝え、その営みの持続可能性に貢献することを目的とし、『大崎耕土』ブランド認証制度を実施。生物多様性等に配慮した農産物・加工品等を認定することで持続可能な農業を推進すると共に、資源の保全と活用を行うステークホルダー企業等の育成により、関係人口・交流人口の拡大を目指した取組。

基本情報

人口：120,040人(令和8年3月時点)
面積：797km²
産業：電子部品・デバイス、保険衛生・社会事業、農業

取組による地方創生效果

- ▶▶▶持続可能な農業の推進
農産物・加工品等のブランド化、農家の収益増
- ▶▶▶関係人口・交流人口の創出
ステークホルダーの育成、パートナー企業間や地域との連携拡大



第2次大崎市総合計画の重点プロジェクトの重点的に取組施策の1つに「世界農業遺産アクションプランの推進」を位置付けている。

出典：大崎耕土「世界農業遺産」HP

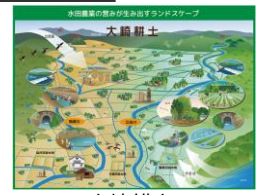
ネイチャーポジティブの視点

▶▶▶地域の自然資源の活用

世界農業遺産認定の「大崎耕土」の自然資源
自然共生サイト認定のため池群、居久根及び周辺水田

環境保全効果

- 大崎耕土の生物多様性保全
- 生きものと共生する農業の普及



大崎耕土 (出典：「大崎市」HP)

取組内容

- ◆大崎地域のコメや野菜、加工品等の『大崎耕土』世界農業遺産ブランド認証を実施。コメの認証要件では、生きものモニタリングを必須としている。
- ◆おおさきGIAHS・SDGsパートナー登録制度に57の企業団体、個人を認定。資源の保全を推進するステークホルダーを育成し、パートナー間の連携が進展。



世界農業遺産に認定されている1市4町(大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町)で職員の人事交流等で連携して進めた。



02 宮城県南三陸町「カキ養殖の1/3革命により地域課題の解決へ」

震災からの復興を最優先としつつ、森・里・海のつながりに支えられた「いのちめぐるまち」を将来像に掲げて、持続可能な農林水産業や資源循環の取組を進めてきた。水産業では、志津川湾でのカキ養殖が、日本で初めてASC認証を取得。養殖施設数を1/3に減らしたことで、収益向上や底質への負荷低減など、地域への様々なシナジーをもたらした。

基本情報

人口：10,911人(令和8年2月時点)
面積：163km²
産業：水産業、林業、観光業

取組による地方創生効果

▶▶▶1/3革命により収量・収益UP

カキ養殖施設の間隔を広げ、施設数を震災前の1/3にしたこと(1/3革命)で、生産量2倍、生産額1.5倍、経費は4割減

▶▶▶子供たちに誇れる漁業で後継者も増加

1/3革命で労働時間も減るとともに、ASC認証※取得に伴い定休日を設けるなどの働き方改革で後継者も増加

※養殖場の環境・社会的影響を評価する国際的な環境認定表示

ネイチャーポジティブの視点

▶▶▶地域の自然資源の活用

志津川湾の豊かな海とカキ養殖

環境保全効果

○底質環境への負荷低減

出荷までの期間が3年から1年に短縮され、カキの糞や付着生物の堆積による底質への負荷が低減



取組内容

- ◆志津川湾では、震災前まで過密養殖によりカキの品質が県内最低ランクでしたが、震災後、戸倉地区の漁師たちが「1/3革命」に取り組み、品質向上だけでなく、様々なシナジーを創出
- ◆子や孫に残せる持続可能な漁業を目指したことが、地方創生とネイチャーポジティブにもつながっている

以前の過密養殖に戻らないよう、外の目を入れるという視点で、日本初のASC養殖場認証を取得し、「戸倉っ子かき」としてブランド化



出典：震災復興から生まれた持続可能な養殖～南三陸戸倉の挑戦～(WWF)



出典：宮城旬鮮探訪

地域の絆の強さ、研究者や行政など多様な主体の関わりが、その後も様々な波及効果をもたらしていった



志津川湾の将来を考える研究会の様子
(出典：環境研究総合推進費S-13終了成果報告資料)

03 三重県いなべ市「グリーンインフラを活用した交流拠点が繋ぐ人」

いなべ市の地域特有の資源(=グリーン)を都会的な感性(=ローカルセンス)で磨き上げ、都市の人々を魅了するモノ・コト・トキを創りあげること(=クリエイティブ)を目指す「グリーンクリエイティブいなべ」のコンセプトのもと、放棄林を活用した「にぎわいの森」をまちづくり・ひとづくりの拠点として活用し、地方創生に結び付けている取組。

基本情報

人口: 44,289人(令和8年3月時点)
面積: 219.8km²
産業: 製造業、卸売業、小売業

取組による地方創生效果

▶▶▶交流人口・関係人口の創出

来訪者の増加、周辺地域への回遊率向上、移住者による地域活性化

▶▶▶地域経済の活性化

にぎわいの森の商業店舗の売上向上、周辺商業施設の売上向上、新規創業の増加と雇用創出

<総合計画の関連施策・目標> 第3次いなべ市総合計画
総合的取組「6-1:グリーンクリエイティブいなべ」の推進(グリーンインフラの推進、にぎわいの創出、交流人口の拡大)

ネイチャーポジティブの視点

▶▶▶地域の自然資源の活用

放棄林を活かして整備した「にぎわいの森」

環境保全効果

○グリーンインフラとしての多面的機能の発揮

雨水貯留(約307m³/hr)、CO₂吸収(約38.9t-CO₂/年)、日射・暑熱の回避、生物の生息域等



(出典:いなべ市HP)

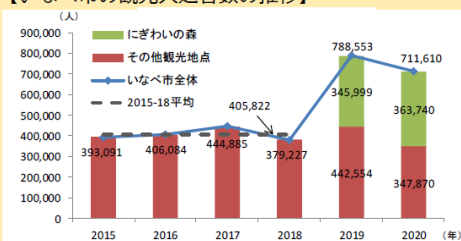


取組内容

- ◆いなべ市役所新庁舎整備と同時に放棄林を活用し「にぎわいの森」として整備し、農業振興や生業・就業促進、商業・観光振興、市民協働の促進の交流拠点として活用。
- ◆雨水貯留等の防災・減災、日射・暑熱の回避、生物生息域の拡大など、グリーンインフラとしての機能を持つ。快適性・リフレッシュ効果もあることから来訪者のWell-beingにも寄与。

観光客入込数は2015-2018年の平均と比較し2019年は1.94倍に増加。

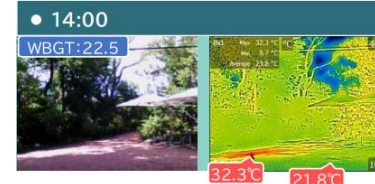
【いなべ市の観光入込客数の推移】



(出典:R4年度にぎわいの森効果検証結果)

市内事業者と共同開発したいなべ菓子「ののか」

豊かな植栽によりヒートアイランドを抑制し快適な空間を形成。



(出典:R4年度にぎわいの森効果検証結果)